

視 察 研 修 等 報 告 書

令和 6 年 6 月 3 0 日

坂井市議会
議 長 戸 板 進 殿



会 派 名 創 政 会
代表者名 田 中 哲 治

1. 日 時 令和 6 年 6 月 4 日 (火) から 5 日 (水)
2. 視察研修先 ①有限会社 ひろめカンパニー (高知県高知市)
②丸亀市観光協会 (香川県丸亀市)
3. 視察研修内容 ①ひろめ市場の開設の経緯と運営方法について
②丸亀城延寿閣の利活用について
4. 参加者 田中哲治、前田嘉彦、伊藤聖一、前川徹、鍋嶋邦広、広瀬陽子、
林豊夏、山田秀樹 (6/5 のみ参加)

5. 内容詳細

【1 日目】ひろめ市場の開設の経緯と運営方法について

平成浪漫商店街 ひろめ市場 ―民間による柔軟な運営で地域のための居場所作り―

- ・高知市中心市街地の活性化と中心部の遊休地の有効活用が課題となっていた
- ・人が集まり、夜でも安心できる「場」の形成を目的

◆ひろめ市場の概要

ひろめ市場は、高知市中心部に位置し、平成 10 年 10 月に開設されました。この市場は、中心市街地の活性化と遊休地の有効活用を目的としており、地域の居場所づくりに貢献しています。施設の規模は敷地面積 4,056 平方メートル、建築延面積 599 平方メートルで、1 階にはひろめ市場とよさこい広場があります。2 階と屋上には駐車場があり、約 180 台の車を収容可能です。

◆来客数と店舗数

ひろめ市場には、平日約 3,000 人から 6,000 人、土曜日や祝日には約 10,000 人、日曜日には 18,000 人もの人々が訪れます。特にゴールデンウィークやよさこい祭り、お盆の時期には約 160,000 人から 140,000 人の来客があり、年間では約 300 万人が訪れます。当初は 6 店舗からスタートし、令和 5 年末時点では 56 店舗が営業しています。

◆運営と管理

ひろめ市場は当初、5年の期限付き定期借地として開設されましたが、平成17年以降、「有限会社ひろめカンパニー」が土地と建物を取得し、長期営業が可能となりました。現在、駐車場は「タイムズ 24」が管理し、1階店舗部分の管理運営は「ひろめカンパニー」が担当しています。地元の常連客が平日の約7割を占め、土日祝は県外からの観光客が多くなります。また、外国の大型客船の影響で外国人観光客も増加しています。

◆取り組みと活動

ひろめ市場は、高知県の食文化や人情を広めることを目的としており、自由席や相席を積極的に取り入れ、楽しい雰囲気を提供しています。また、泥酔者などのトラブルに対しては警備員が迅速に対応し、安全な場所を提供しています。利用者のルールとして、ひろめ市場外からの食べ物や飲み物の持ち込みは禁止されており、使用済みの食器は回収棚に返却することが推奨されています。

◆誘客戦略とイベント

ひろめ市場は、高知の観光スポットとして衣食住文化を広めることをコンセプトにしています。地元の利用者を増やすために、年間を通じて季節に合わせたイベントを開催し、観光客も楽しめる場所として集客を行っています。具体的なイベントとしては、ゆすはらフェアや三原村物産展、土佐清水市物産展、鏡開き、子供書初め大会などがあります。また、高知城や日曜市などの観光施設と連携し、地元客と観光客を巻き込んだ集客活動も行っています。

【2日目】丸亀城延寿閣の利活用（＝城泊事業）について

◆城泊事業の概要

対象：本物志向の強い欧米等の富裕層

内容：現存12天守のひとつでもある丸亀城を貸し切りにし、旧丸亀藩主京極家ゆかりの延寿閣別館に宿泊し、地域の文化や歴史、食を楽しんでもらう贅沢な宿泊プラン、食事は瀬戸内海の食材と伝統料理を提供、夜は天守を貸し切りナイトラウンジとして特別な時間を演出、翌日は、京極家の別邸（中津万象園）にて、朝食を提供し更に、丸亀うちわの制作体験や煎茶道体験でおもてなしをする

目的：丸亀城跡内に高付加価値の宿泊施設を設け、他との差別化を図り、世界中に「MARUGAME」をPRすることで、より多くの観光客の来訪を目指すと共に、ブラッシュアップした各種体験プログラムやお土産品の開発等により、地元事業者の収益性の向上を目指すこと

◆城泊事業事業化までの経緯（丸亀市の取り組み）

令和2・3年度

観光庁の専門家派遣事業に応募・採択

＊延寿閣別館が城泊事業の宿泊施設として最適であるとの提言を受け、歴史的資源を活用した観光まちづくりの第一弾として、城泊事業を推進する事を決定

令和4年度

城泊事業準備事業として、補助金 約700万円を予算計上

＊延寿閣別館の耐震診断 耐震設計・宿泊施設への改修設計実施

まるがめDMOにて、宿泊運営計画、体験型・滞在型コンテンツの企画

市民向けセミナー（歴史的資源を活用した観光まちづくりセミナー）の開催

令和5年度

延寿閣別館の建物及び庭園改修工事 事業費 約2億2,700万円計上

城内施設整備及び家具工事 事業費 約 4,300万円計上

旅行商品企画開発及び調査事業等 補助金 約 1,250万円計上

令和6年度

城泊運用開始

城泊予約受付開始 5月1日～

城泊オープニングセレモニー 5月21日

延寿閣別館一般公開 6月21日～23日

宿泊事業開始 7月1日～

◆運営と管理及び全体事業スキーム

宿泊事業全般（予約サイトの運営、料金徴収、宿泊全行程の管理運営）を民間事業者の再委託

委託料はその全額を宿泊費で賄い、宿泊事業者が一泊につき市へ10万円、観光協会に8万円、その他各種団体へ出演料等を支払う

尚、城泊事業に係る各種体験プログラムやオプションプログラムについては、ホテル事業者から、丸亀市観光協会が連絡を受け、時間調整し、当日も同行する

＊宿泊料金は、一泊二名（夕・朝食付き）で、115万円で設定

6. 所見・感想等

（林 豊夏）

ひろめ市場は、単なる市場以上の価値を持つ場所として機能しています。地域の食文化や人情を体験できる場として、地元の人々や観光客に愛されています。特に、自由席や相席という仕組みは、訪れる人々の交流を促進し、楽しい雰囲気を醸成しています。様々なイベントが開催されることで、常に新しい発見や楽しみがあり、訪れるたびに違った魅力を感じることができます。

また、安全対策もしっかりとしており、泥酔者やトラブルに対して迅速に対応する体制が整っている点も安心できます。これにより、誰もが安心して訪れることができる場所となっています。ひろめ市場は、地域の魅力を最大限に引き出し、地域と観光の両面で大きな貢献を果たしていると感じます。

坂井市内にも、こういった安全で観光客も地元客も楽しめる場所を作り上げたいと感じました。

歴史的に価値のある三の丸延寿閣別館を利活用し、「殿様になった気分を味わってほしい」というコンセプトを体現しています。これにより、宿泊客は丸亀城を独り占めし、丸亀の文化をふんだんに感じることができます。事業の本格的な開始がこれからであり、成果が楽しみです。また、安全対策もしっかりとしており、誰もが安心して訪れることができる場所となっています。この事業が地元の魅力を最大限に引き出し、地域と観光の両面で大きな貢献を果たすことが期待されています。坂井市内にも、こういった安全で観光客も地元客も楽しめる場所を作り上げたいと感じました。

(鍋嶋 邦広)

ひろめ市場は、数年前に個人的に訪れた時の印象と変わらず、昼間からにぎわいをみせていた。

永く続いたコロナウイルス感染症により、大きな痛手を受けたにもかかわらず、昔の活気を取り戻していた事にほっとした思いだった。今回は、視察先として、現場のコンセプトや運営面の工夫も伺う事が出来、改めて、ひろめ市場が、高知観光の大きな存在感と地元の人々のコミュニティの中心的役割と観光客との交流の場としても、重要な役割を果たしているところは、大いに参考になった。また、運営面の工夫、コスト削減、周辺地域との連携含め、今後の坂井市におけるにぎわいづくりのビジネスモデルとして、参考にしたい。

丸亀市での視察は、2019年改正の文化財保護法により、文化財の保存と活用の取り組みが、全国の自治体で検討されるようになり、同市においては、丸岡城同様現存12天守のひとつでもある国指定重要文化財丸亀城天守を擁し、この丸亀城をまるごと貸し切りにし、丸亀城延寿閣別館の利活用（城泊事業）を展開する事で、またその他同市の歴史、文化、食、伝統工芸、産業などの地域資源を活用した体験型コンテンツを醸成し、正にインバウンド富裕層にささるオンリーワンの旅行商品を造成され、市の観光協会と委託事業者、地元の関係者がひとつになって取り組まれている点は、本市のこれからのインバウンド戦略を考える上で、大いに参考になった。

(廣瀬 陽子)

ひろめ市場は、コロナで集客の少ない時期もあったが、令和6年のゴールデンウィークは約14万人の集客があるほど、高知県内でも有数の観光スポットとなっている。

ひろめ市場は自由席になっており、地元の人が観光客に気軽に声をかけて一緒に食事をするといった、もともとの地域性が観光客やインバウンドへ向けた他の地域にない魅力であり、付加価値であると感じた。

坂井市の観光地でも、地域の人との会話や交流につながるようなイベントや店舗、街並みを工夫できれば、ますます地域の魅力につながると感じた。

丸亀城は、城泊1泊2日2名利用（朝食1回 夕食1回）1,265,000円（税込）であり、地域の人とふれあうオプションの体験メニューを作っている。お城だけに来てもらうのではなく、周辺地域にも波及して地域がもうかる仕組みを考えていた。

城泊というメインのコンテンツで集客や注目度を高め、丸亀城だけでなく、もう一泊を周辺の空き家を改装した宿泊施設を利用してもらったり、市内の他の観光地へも立ち寄ってもらうことを今後考えていく予定との話があった。坂井市内でも観光客の

多い場所はあるが、そこから周遊してもらうための工夫を考えていくことが必要であると感じた。

(山田 秀樹)

観光で訪れる迎賓館は赤坂離宮が有名である。しかし、宿泊は国賓等に限られ、日本人は宿泊できない。丸亀城延寿閣は宿泊可能な迎賓館である。金額は相応に高いが大正初期の華族が過ごした貴重な歴史的建造物で、贅沢な時間を過ごせる。

本物志向の宿泊プランは国の施策であり、観光庁は城泊、寺泊を推進。

丸亀市は専門家派遣事業に応募、採択され延寿閣がふさわしいとの提言を受け、高付加価値の城泊事業の推進を決めた。殿様気分を味わえるなど他との差別化を図り、世界中にPRし、多くの観光客獲得に乗り出した。

現在、予約は城好きの国内富裕層が多いとの説明だったが、PRが浸透していくことで外国客取り込みの指標、聖地となり、全国に波及する起爆の地となることを強く望む。当市において、古い伝統を持つ丸岡城関連での宿泊を可とする整備、また寺社その他歴史的風致が醸し出す価値で新たな観光資産として押し上げていくことに光明が見える。400周年を最大限に活かすためにも、新しい土産、地場産料理など地域を巻き込む新たな商品開発、経済連鎖が生み出されることからの新たな方向性を高めていきたい。今後も丸亀を注視し、準え、さらには当地独特の個性、風情を加味し観光が推進されていくことに期待したい。城の利活用、厳格なる資産を目の当たりにしたことは大変貴重な経験であった。

(伊藤 聖一)

●ひろめ市場：開設の経緯と運営方法について

完全な民間主導で補助金ゼロの公共的広場を創り、年間300万人の集客力に驚きました。観光客だけでなく地元民の集客にも力をいれており、誰でもが気軽に立ち寄り飲食が出来る雰囲気があり、初対面でも気軽に話ができる楽しい施設だと思いました。施設の社長さんと話をして気づきましたが、ひろめ市場繁盛の最大の理由は「土佐人」のお客さんをもてなす気風なんだろうと思います。内気な北陸の人が全国・世界からリピーターの観光客を呼び込もうとする時に見習うべきだろうなと思います。

●丸亀市観光協会：丸亀城延寿閣別館の利活用について

延寿閣は丸亀藩江戸屋敷を移設した歴史ある建物です。文化財の保存活用の観点から、宿泊施設に改修し特別な体験を組合せビックリするような高額でツアーを企画しています。大洲城キャッスルステイを参考にしたようで、文化庁出身の文化財活用の専門家のコンサルを受けているようでした。

丸亀城は国宝化を目指しておらず、あくまでも文化財の観光への活用に力を注いでいるようです。

(前田 嘉彦)

●ひろめ市場：開設の経緯と運営方法について

開設当時は中心市街地の活性化と中心部の遊休地の有効活用が課題であり、人が集まれる場所づくり、夜でも安心できる場所づくりを目的に、平成10年、「この土地を

商店街活性化の核に」と地元から提案されたプランに、所有者である財団法人民間都市開発推進機構、ミサワホーム株式会社、地元建設会社等が賛同し「ひろめ市場」が建設されている。

平成 17 年以降は「有限会社ひろめカンパニー」が店舗部分の運営及び建物管理を行っており、1 店舗約 4 坪を基本小間としている。また、お席は基本自由席であり相席も積極的に行って楽しく自由に飲食できるような雰囲気づくりにも努めているとのこと。

新規出店店舗選考における主軸には、地元食材や料理の提供を考えていることや、ひろめ市場を「事業起こしの登竜門」、「高知県の発信の場」とすることで、地域活性化にもつなげている。

コロナ前には年間約 300 万人が来場していたがコロナ時は約半分、現在は約 9 割まで回復してきているとのこと。

高知県の県庁所在地の高知市にあるひろめ市場は、高知城、おひさんロード商店街や繁華街に近接しており、北側の追手筋はよさこい祭りの会場の一つでもあり、立地条件として良い場所であると思われた。また、お昼時からお酒をたしなむ地域性もあってこれからも高知の情報を発信していけるパワーも感じられました。地元の人も観光客も集まれる、楽しめる場所づくりが重要と思われた。

●丸亀市観光協会：丸亀城延寿閣別館の利活用について

昭和 8 年 12 月に丸亀市の迎賓館として、丸亀城三の丸に延寿閣が建設され、これに連なる貴賓室として延寿閣別館が建設されている。延寿閣は老朽化のため昭和 60 年 3 月に解体され、延寿閣別館は年に 1 から 2 回程度イベント等で使われるだけであり老朽化の一途をたどっている状況であったとのこと。

2019 年 4 月の改正文化財保護法により、文化財を地域資源として活かした地方創生の取り組みが行われ始め、文化財の保存と活用の観点から、観光庁の助言を受けながら歴史的資源を活用した観光まちづくりの第一弾として延寿閣別館を宿泊施設として活用する城泊事業を推進することになった。

丸亀城三の丸延寿閣別館城泊事業は、現存 12 天守のひとつである丸亀城に高付加価値の宿泊施設を設け、他との差別化を図り、世界中に「MARUGAME」を PR することで、より多くの観光客の来訪を目指すとともに、ブラッシュアップした各種体験プログラムやお土産等の開発により事業者の収益性の向上を目指すことを目的としている。

城泊予約受付を 5 月 1 日より開始し、宿泊事業開始は 7 月 1 日。訪問時には数件の問い合わせはあるが予約はゼロとのことだった。宿泊料金が 2 人 1 組で 115 万円（税別）と高額であり、超有名人を招待するなど更なる PR 活動が必要と思われる。

現在坂井市では丸岡城のおもてなし拠点整備事業として、国内でも珍しい懸垂型構造の丸岡観光情報センターをお城の東側に建設中であり、約 400 年前に建てられた丸岡城と新建築構造との対比を売りにして、PR 活動・誘客へとつなげていくことが重要と感じた。

（田中 哲治）

（1）ひろめ市場開設の経緯と運営方法について

ひろめ市場は、高知市中心部でしかも高知城の近辺で立地条件もよく、土佐の風土

に育まれた食文化・商い文化を受け継がれ市民からも親しまれている市場である。

建物は3階建てで、飲食店は1階のみであり、飲食テナント募集の際は、提供する献立や商品に高知らしさのある店舗にしている。休憩や食事をするスペースを十分用意するために店舗数を抑えたそう。見知らぬ者同士が8人掛けのテーブルで相席となつて、会話を交わしながら高知の食を楽しめることが、結果的に成功につながっていた。

コロナ前の平成30年の入込客数は約300万人/年間で、平日は地元常連客が7割を占めるが、土日や祝日は県外観光客が7割を占めている。大型客船の影響で国外観光客も多くなっているとのこと。

課題は、コロナ禍以前の客数にどう戻せるか、交流の拠点としての取組みを強化していくことである。

坂井市においても、三国港市場や観光地が多くあり、まずは地元のお客さんをどう惹きつけるかが大事といえる。そして県内外や外国観光客を集客する企画等の取り組みが不可欠である。

(2) 丸亀城延寿閣別館の利活用について

丸亀城は地元丸亀市民のシンボル・憩いの場だけでなく、全国に現存する12天守の一つであり、県としても重要文化財であり重要観光地となっている。コロナの影響で来場数者はここ数年減っているが、そのような中、市では新たな起爆剤として1泊一人当たり60万円という城泊をスタートさせようとしている。(本年7月スタート)

知識やノウハウも十分あるわけではなく、試行錯誤の中で動いているとのこと。また、市単独では限界があり、県の知識やノウハウを生かしてぜひ多くの方に城泊を知ってもらって、多くの方に来ていただくことが責務であるそうだ。

坂井市においても、現在(仮称)丸岡観光情報センターの新築工事中だが、特に地元の方に来ていただき、県内外はもとよりインバウンドの方々にとって、日本文化を体験できる付加価値の高い観光コンテンツであることを考えて積極的な情報発信を行っていただきたい。

(前川 徹)

平成浪漫商店街「ひろめ市場」

高知市中心市街地の遊休地の有効活用として、人が集まり、夜でも安心できる「場」の形成を目的に、そして高知県の食文化や人情等をひろめることをコンセプトに、スタートした。当初は期限付きの借地であったが、平成17年以降は、土地、建物ともに有限会社ひろめカンパニーが取得、2階を駐車場としてタイムズ24に管理委託をしている。

テナントは主に飲食店だが、席は自由で相席で楽しく飲食できる雰囲気づくり、泥酔者のトラブルは警備員やインフォメーションで即時に対応、使用済みの食器は職員センターの職員が回収するなど、県民及び観光客が安心して心地よく集える場と感じた。人情のある県民性が土台にあるようで、同じ試みをした県外の事例はことごとく失敗しているという。高知城に近く日常的に人が集まる立地条件と、県民性を活かした民間による柔軟な運営が、地域のための居場所づくりとして成功している事例であ

った。

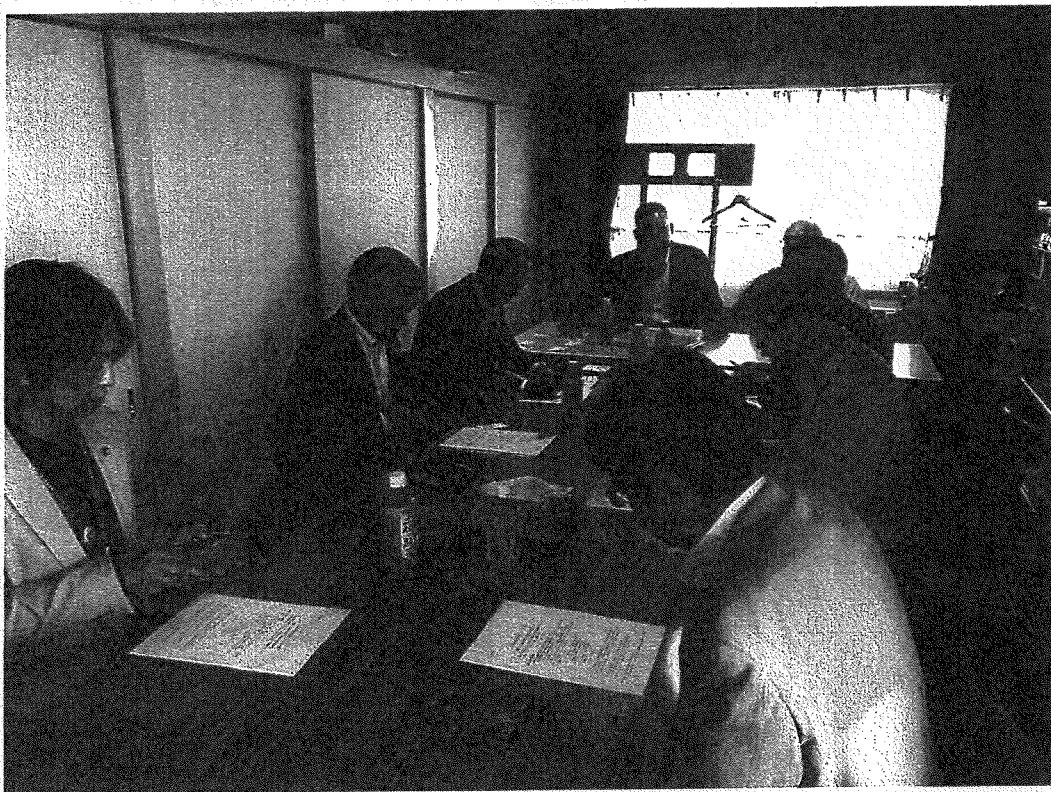
観光客や地元市民が毎日のように集う場は、本市では難しいと思うが、土日やイベント等において来場者を歓迎、楽しませる企画として、参考になるものであった。

丸亀城延寿閣別館の利活用

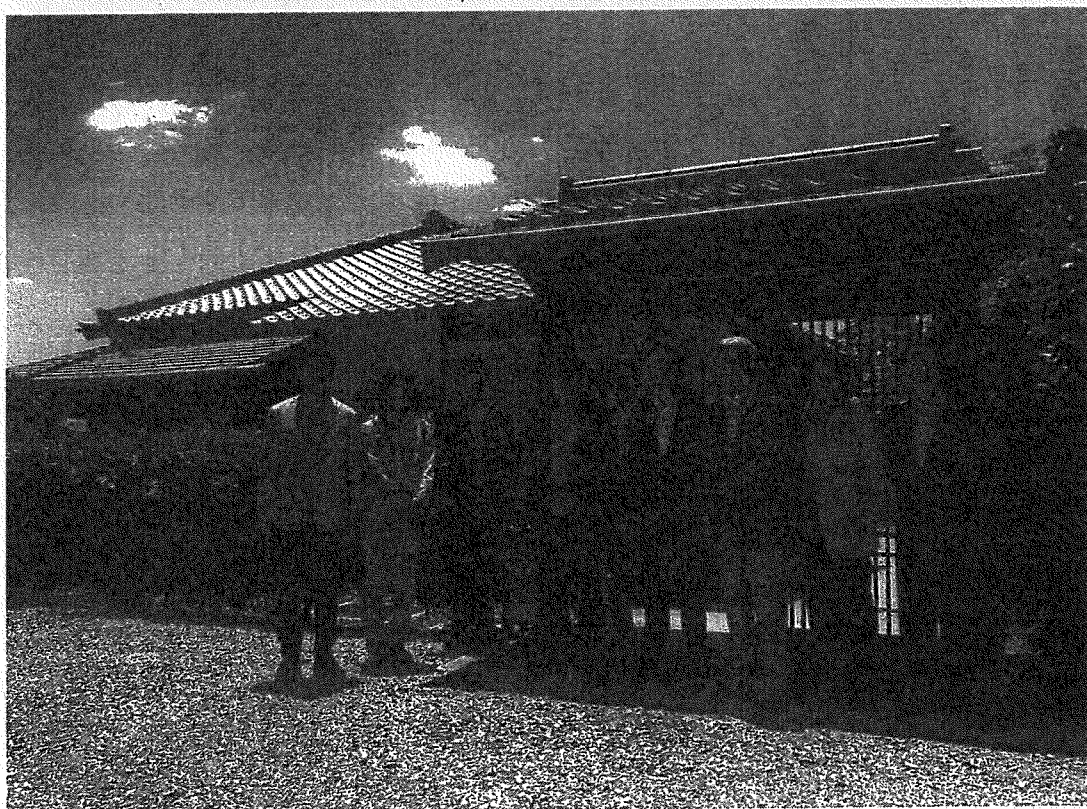
現存する 12 天守の一つである丸亀城を貸し切り、旧丸亀藩主京極家にゆかりのある延寿閣別館に宿泊して、地域の文化や歴史、食を楽しめる贅沢な宿泊プランを、2024 年 7 月 1 日からスタートする。丸亀市観光協会が指定管理を受け、宿泊事業全般については民間事業者にも再委託をして実施するもので、委託料はその全額を宿泊費で賄うものであった。

1 人 1 泊 60 万円以内に設定し（2 人で税抜き 115 万円）、宿泊事業者が 1 泊につき市へ 10 万円、観光協会へ 8 万円余り、その他各種団体への出演料を支払う仕組みは、お互いが利益を生む仕組みであると感じた。また、和太鼓による歓迎の演奏、伝統的 日本建築の貴賓室での料理と宿泊、夜の天守を貸し切ったラウンジ、うちわ作りや煎茶道体験など、インバウンド向けとして価値を高める工夫が感じられたが、実際の予約は日本人が多いということであった。

同じ現存する天守を持つ丸岡城の、観光地としての魅力度を上げる一つの取り組みとして、参考になる事例であった。



2日目



会 派 内 供 覧